

◎今週の御言葉 「主にある家族」(創世記24章62節～67節、コロサイ人への手紙3章18節～4章1節)「イサクは、その母サラの天幕にリベカを連れて行き、リベカをめとり、彼女は彼の妻となった。彼は彼女を愛した。イサクは、母のなきあと、慰めを得た。」(24:67)「何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から行いなさい。」(3:23)

◎キリスト教会では一人ひとりのことを互いに「〇〇兄弟」「〇〇姉妹」と呼んでいます。その家族関係とは？

◎「あなたの父と母とを敬え」(出エジプト20:12)、この十戒の第五戒は、神様の関係と人間関係を結ぶ要です。パウロは「子たちよ。主にあつて両親に従いなさい。」(エペソ6:1-2)と語り、イエス・キリストにある人間の関係を明記しています。それは5章の「夫と妻」、6章の「主従関係」にも影響を及ぼすのです(コロサイ人への手紙にも同じ勧め)。

◎創世記で24章ではイサクとリベカとの出会いが記されています。神様の摂理により出会わされ、一つの家庭が誕生したのです。真実な家族関係は神様の摂理を認めることによる。

◎コロサイ人への手紙を通して、キリスト者は「バプテスマによってキリストとともに葬られ、またキリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、キリストとともによみがえらされたのです。」(2:12、ロマ6:8～10)。また「あなたがたは、古い人をその行ないといっしょに脱ぎ捨てて、新しい人を着たのです。新しい人は、造り主のかたち似せられてますます新しくされ、真の知識に至るのです。」(9,10)。更に「神に選ばれた者、聖なる、愛されている者」(12)なのです。ですから「上にあるものを求めなさい。地上のものを思わず、天にあるものを思いなさい。」(3:1,2)。また「あなたがたは深い同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。」「互いに赦し合いなさい。」「愛を着けなさい。」「キリストの平和があなたがたの心を支配するようにしなさい。」「感謝の心を持つ人になりなさい。」「キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住まわせ」なさい、と勧め(12～16)、最後に「すべて主イエスの名によってなし、主によって父なる神に感謝しなさい。」(17)と締めくくっているのです。18節以下を見ますと人間関係の鍵となる言葉は「主にある」事であり、「主を恐れる」事であり、「主に対してする」事にあることを覚えてほしいものです(18,22,23)。このことにより「人間関係」の源である「夫と妻」「親と子」「主人と奴隷」等のお互いの関係が深められていくのです。すべてのことが「キリストに仕えている」事であり、「主から報いとして、御国を相続させていただく」のです。まず神様と和解し、豊かな愛に生きよ。